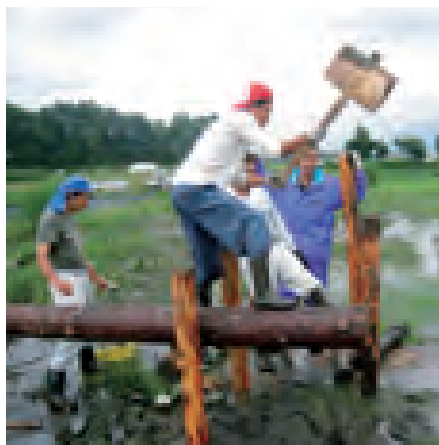




室内区は、昭和55年から現在にかけて人口が2倍に増えたことから、新しい居住者との交流を図る必要があり、地域の環境整備をテーマに、室内むらづくり委員会を3年前に結成しました。農地・水・環境保全向上対策事業を導入し、この委員会が中心となり、農業、農村の基盤を固め、環境の向上を図るべく活動をはじめました。昨年は、草刈り作業の省力化の為に、共同で防草シートを布設しましたが、今年はピオトープ造りに挑戦しました。

ところで、ピオトープって何でしょう？それは、水辺に水草や、生物等が生息する環境をいいます。現在、化学肥料の使用による水質汚染が問題となつていますが、水草が窒素分を吸収することで、水質の浄化にも役立ちます。昨年から、古代ハス、スイレン等を植えてきました。今後は、浄化された水田に、タニシなどの生物を放流する予定です。



農地・水・環境保全向上 対策事業

事業の内容には、大きく別けて共同活動と営農活動の2つの活動があります。

共同活動では、農用地の草刈、水路の泥上げ等、農業者以外の住民にも参加してもらい、地域ぐるみで農地向上の整備をしています。

営農活動は共同活動を一步押し進め、50%削減の減肥減農薬で水



室内むらづくり委員会は、このような行事を通じて、人々の交流を深め、楽しみながら地域づくりに取り組んでいます。

平成21年には長野県の認証米を栽培するとともに、ジュニア教室のそばまき、収穫、郷土食講習会などを予定しています。

室内むらづくりの今後

稲を栽培し、エコファーマー（環境にやさしい農業を営む農業者）として都道府県知事の認定を受けることで、環境にいい農地づくりと体制づくりを行っていきます。

安全により近くから、水生植物と触れ合えるようになりました。このことで、子供たちはもとより、大人にも自然に親しんでもらうことが出来、環境の大切さも理解されることと思います。

ピオトープ造り

共同作業で地域の環境整備

室内むらづくり委員会 ピオトープ完成

4月から

原村のホームページが新しくなりました

より見やすいページを目指します！



【自分に合った使い方を】
文字の大きさや背景の色を簡単に変わります。

【目的別の3つの入り口】
3つの入り口を設けることにより、目的にあわせた閲覧ができるようになりました！

【一目で分かる新着情報】
記事の更新があったものは新着情報に掲載されます。行事だけの新着もあるのでとても便利！

【分かりやすい分類】
暮らしの中での出来事別や、目的別に情報が分類されているので、欲しい情報にラクラクたどり着けます！

【QRコード搭載！】
携帯電話からも原村の情報を！

この他にも……

ホームページ全体が見やすく、親しみやすくなったり、「総合カレンダー」で健診やイベント等の行事が簡単に調べられる…などなど、今までのホームページにはなかった機能が大幅にアップされています。ぜひ一度アクセスしていただき、新しくなったホームページを楽しんでいただきたいと思います！

<http://www.vill.hara.nagano.jp/>

原村でも部分日食が見えました！

八ヶ岳自然文化園では、部分日食観望会が行われ、日食を見ようと会場には300人以上が集まりました。

当日は、朝から雨が降り心配されましたが、午前10時30分頃からは厚い雲に覆われていた雲の間から、欠け始めた太陽が顔を出しました。会場には「すごい」「や見えたー」など、歓声が起こりました。通常は日食メガネ等を使用しますが、今回は雲のおかげで直接見る事が出来ました。



八ヶ岳自然文化園から撮影

午前11時10分の食最大に向けて、カウントダウンされましたが、太陽は厚い雲の中でした。会場には落胆と失笑の聲が上がりましたが、雲の中から再び顔を出すと、会場は一気に歓喜の声であふれました。

下諏訪町から訪れた家族は、「原村へ見に来て良かった。」と話していました。

諏訪地方では、26年後の2035年に最大99%の日食が観察できるとのことです。

COLUMN

村長よつゝの山麓朴談



昔、上の原は草原でした。俎原（まがはら）と言ひ、今の中央高原一帯です。多数の草花が咲き乱れ、有機質肥料の刈り敷きの為や牛馬の為の採草放牧地でした。

上の原は乾いた芝草が多く、赤蟻の巣が所々に小山を成すような所でした。森林は限定的であり、草原と通り抜けの利かない敷で、遠くまで見晴らせて、4キロ先からでも放牧の馬の背を確認できたし、昭和13年（1938）開場の八ヶ岳農場で掲げる日の丸の旗は、柳沢の集落からも見る事ができました。

原村への最初の入植は中新田で慶長15年（1610）のことですが、金沢の金鶏金山の金堀り達が金の産出が少なくなり、百姓になろうと八ヶ岳西麓の毎年雪解けの早い所めがけて来てみれば、それは雪も積らぬ北風の強い瘠薄な草原であつたとは、幼い頃に古老達からよく聞かされる話でした。爾来勤勉の人々はこの草原の草を根こそぎ刈って、牛馬にてつけ下し田畑を肥やし、現在の肥沃の大地を養つたのです。ですから新炭林として特別に仕立てた所以外は、草原が保たれて近年に及んだのです。

一方草原は多種多様な草花の宝庫というばかりではなく、薬草として人々の健康を維持しました。また飢饉の際には食料の補給基地の役目も担いました。ミネバ（ツリガネニンジン）やユリの根は美味でもあり、大切な里人の糧となつたとは、祖父らの語り草でした。クサボケからは酔もとりました。

子供の頃、盂蘭盆が近づくとこぞつて盆花採りに出掛けました。ありとあらゆる草花を採りましたが、よく採れた人気の花はキキョウ・オミナエシ・アヤメ・ユリ・ツリガネニンジン・クガイソウ・フジバカマ・ホタルブクロ・ワレモコウ等数えきれない程でした。背負って立てない程の花束を互いに競つたものです。豊かな草原もだんだん役目がなくなり、経済効果を期待されて、共有主の各集落は植林政策をとり、50年から60年間の間にすっかり森林化されてしまいました。しかし原村の築村の原動力となつた草原は、原村を語る時なくてはならないものです。小規模でも良いからモデルとして、草原を復活させなくてはなりません。花々は戻つて来ると思ひます。

原村長 清水 澄



原村にふさわしい公共交通のあり方年末を目途に方向付け

今年度村では、地域の皆様と一緒に原村にふさわしい公共交通のあり方について検討し、年末を目途に方向付けをしてまいります。こうあつたら乗りたいという公共交通の案等がありましたら是非ご提案ください。

◆経過と目的

様々な技術の進歩から非常に便利になった二十一世紀ですが、地方の公共交通に限ってみれば、むしろ年々不便さを増す状況ではないでしょうか。

村の第四次総合計画策

生活環境についての満足度を調査した結果「やや不満」「不満」という回答の合計が一番多かったのが「バス・鉄道など公共交通機関が利用しやすい」でした。これまで、役場職員らによるプロジェクトで検討を重ね、昨年度は法政大学と

定に向けて平成十七年四月に行つた原村在住の十八歳以上の男女千人を対象に原村の住民サ



の連携事業でも公共交通をテーマに提案をいただきました。昨年七月に諏訪バス株式会社から不採算バス路線の見直しについての協議を受け公共交通の検討は喫緊の課題となりました。

▼今年二月原村公共交通あり方検討会議設置

住民のみなさん及び原村

を訪れるみなさんの移動手段の確保等、村内における公共交通のあり方を、二酸化炭素削減による環境の村づくりという視点をも合わせながら検討するため原村公共交通あり方検討会議を今年二月に設置しました。検討会議のメンバーは、「各区等の



▼茅野市と協議会設置

今年度は、国の支援を受ける中で、地域の交通の実態調査や、問題点、課題を検討し、先進事例を踏まえて、運行経路や運行形態の検討や収支シミュレーションを行い、来年度から実証運行するた

「連携計画」の策定に当たっては、まちづくりの視点や公共交通の利用促進策も含め、将来にわたつた公共交通のあり方を「現状を白紙にした状況」から検討することとします。

茅野市・原村ともに単に移動手段としての公共交通でなく、まちづくりの視点も担うものとし、さらに地球環境に対する責任も意識した公共交通の実現を目指します。

村づくり通信

村づくり戦略推進室 村づくり係からのお知らせ

TEL.79-7922 (直通)
E-Mail: muradukuri@vill.hara.nagano.jp



新規需要米（米粉）調印式



5月18日には、米の生産農家とJA信州諏訪、諏訪市にある製粉会社「高山製粉」の3者が県内初となる米粉用米の生産供給契約の調印式を行いました。

契約を結んだ農家は、柳沢区の清水三千男さん、小池一彦さん、弘沢区の日達徳吉さん、清水裕子さんの4名です。

契約は、およそ3.6haの水田にあきたこまちを栽培し、21tを高山製粉に供給する計画です。

今回の取り組みは、食料自給率の低い作物の生産拡大と生産調整の促進を目的に実施される国の補助を受けるために行なわれ、栽培する農家には国から10aあたり55,000円が補助されます。

村では今後、米粉の需要拡大をめざし、JA女性部などの協力を得て米粉のPRをしていきたいということです。

第25回阿弥陀岳開山祭



6月7日には、第25回阿弥陀岳開山祭が開催され県内外からおよそ130名が参加しました。

式典は阿弥陀岳山頂で開催されるため、出発点の舟山十字は山頂へ向かう方で早朝から賑わっていました。参加者は途中、湧き水で喉を潤すなど休憩しながら自分のペースで山頂を目指していました。

式典ではまず、原村観光協会小川会長が「この環境を維持し自然を大切にしていけることを願います。」と挨拶しました。そして登山者の無事を祈願して祝詞を読み上げるなど神事が行われました。また、山で命を落とした方を供養するため献花や黙とうが行なわれました。

晴天に恵まれたこの日、参加者は日常生活では味わえない達成感を山頂で感じながら気持ちのいいひと時を過ごしていました。



勝亦久さん御柱のミニチュア寄贈

やつがね区在住の、クラフト作家の勝亦久さんが役場を訪れ、来年に御柱を控え、住民や観光客の方に御柱を盛り上げていただきたいということで、御柱のミニチュアを寄贈しました。また、勝亦さんは以前にも村に作品（夢爛漫）を寄贈していただきました。

今回の作品は、木落しの様子を表したもので、作品の制作にあたり、前回の御柱では多数の写真を撮り、その時に感じた緊張感をリアルに表現したそうです。作品の中の人形ひとつひとつの動きも細かく表現されています。また、作品の題字は、勝亦さんの奥さんが、書かれたものです。

なお、作品は役場ロビーに来年の御柱まで飾られる予定です。



中新田区創立400年記念碑除幕式

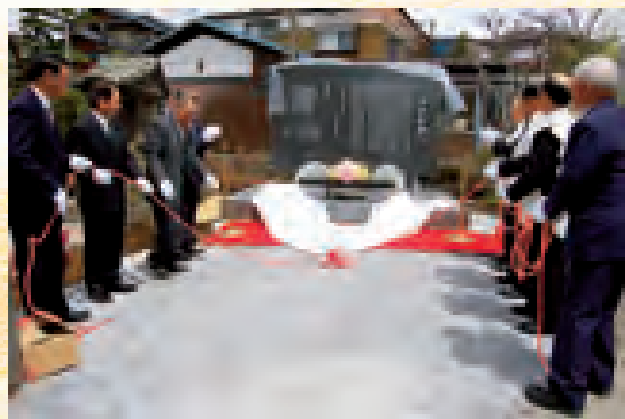
4月26日には、中新田区創立400年を記念して建立された記念碑の除幕式が行なわれました。

記念碑建立は400年記念事業として行なわれ、除幕式には記念碑建立実行委員の方などが出席しました。

記念事業には鎮守社を新築したほか、記念誌の発刊が予定されています。

記念碑は、平成20年に移転した旧区役所の跡地に建てられ、新田開発の開拓の歴史や1610年（慶長15年）に高島藩主諏訪頼水公から与えられた新田開発の免許状と定書が原文のまま刻まれています。

出席者の方は記念碑を眺めながら、先人が築いた中新田区開墾の歴史に思いをはせていました。



日達子男原村消防団長に精績章を伝達

今年2月に、日達子男原村消防団長が財団法人日本消防協会から精績章を授章し、伝達式が3月12日に行われました。

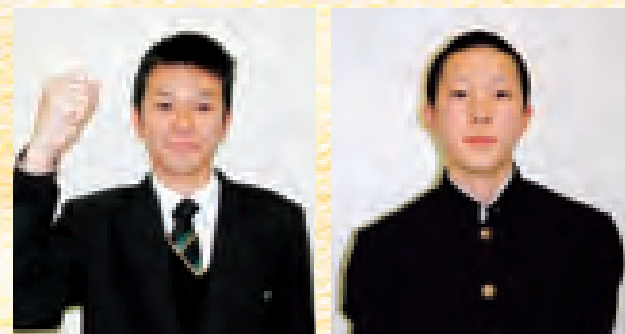
日達団長は原村消防団に勤務し17年以上となります。精績章を受け、日達団長は「団員全員の功績と肝に銘じ、飾らせていただきます」と述べていました。



小池拓磨さん、宮坂耀太君表敬訪問

3月13日には、20日から行われた第40回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会へ出場する小池拓磨さんが村長を表敬訪問しました。小池さんは東海大学附属第三高等学校バレーボール部のセンターの選手で「チームは盛り上げて集中してできている。試合に出たら自分のプレーをしっかりやってきたい」と、出場報告しました。

3月18日には、27日から開かれたはなます杯第3回全国中学生空手道選抜大会に出場する宮坂耀太君が村長を表敬訪問し、出場報告をしました。宮坂君は聖道流聖峰館で空手を習い現在初段を持っており、大会に向け「目標はベスト16」と話していました。



小池拓磨さん

宮坂耀太君

原村を訪れ移住の検討進める

平成20年度から、春夏秋冬と季節ごとに行ってきた村主催の現地見学会は年間80回行われ、関東や東海地方から移住を希望する夫婦や親子ら約120名が参加しました。会の行程は概要説明のほか、実際に移住した方との対談、物件の案内などです。

見学会へ参加することによって、改めて自分の住んでいる土地を見直そうと感じた方、参加2度目で、実際の生活を想定し、交通手段をどうするか検討している方など移住するかどうかの方向性が固まってくるようです。また、移住した方、田舎暮らし案内人や役場職員などから村に住む人たちの誇りや愛着心を強く感じたという感想が複数の方から聞かれました。



県営圃場整備事業竣工記念式典 原村西部地区

平成5年に事業を採択後、着工した県営圃場整備事業原村西部地区は、平成20年度末に全ての事業が完了し、2月23日には原村と原村西部地区実行委員会により竣工記念式典が行われました。

事業の対象となった村西部の室内、菖蒲沢、柏木地区は標高900メートル前後の水田と畑地帯で、当時、農地は不整形で狭く、道水路も未整備だったため収穫物の搬出や水管理に不便な農地でした。この事業で完成した圃場は、効率的で作業しやすい優良農地へと生まれ変わりました。

式典で清水村長は「村のシンボルの事業が完成したことは祝福すべきことです。国や県の協力もあって今日を迎えられました。農業生産を大きく改善させる圃場が完成した一方、中には放棄されている圃場があったり、農業者が高齢化したり新たな課題が生じています。皆様のご尽力をお願いしたい」とあいさつしました。

田畑の受益面積 136ヘクタール／総事業費 30億7,200万円

